

図書館目録の将来：ユーザの視点から ～ ユーザーの拡大を受けて～



国立情報学研究所オープンハウス
CSIワークショップ「図書館目録の将来：
ユーザーの視点から、図書館の視点から」

岡本真

日時：2007年6月8日（金）
会場：学術総合センター

ACADEMIC RESOURCE GUIDE (ARG)

編集長

<http://www.ne.jp/asahi/coffee/house/ARG/>

0. 問題提起

□ 討論に向けて

1. 実は、ユーザーが拡大したのでないか
2. では、新たなユーザーに何を提供できるか
3. そのとき、図書館目録の世界をどう変えられるか
4. そして、目録世界の変化は何を生み出すか
 1. ユーザーにとって
 2. 図書館にとって



<http://www.ne.jp/asahi/coffee/house/ARG/>

1. Web2.0の潮流

□ 新たなユーザー像の登場

- 「受動的なサービス享受者ではなく能動的な表現者」としてユーザー（梅田望夫）

たとえば、

1. Developerとしてのユーザー
2. Publisherとしてのユーザー
3. Providerとしてのユーザー

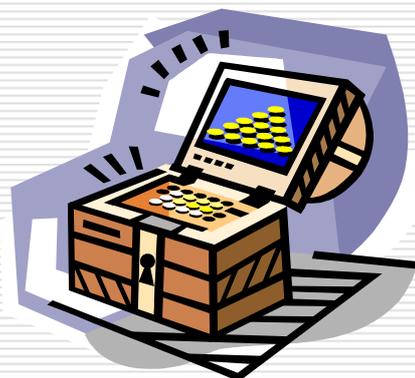


<http://www.ne.jp/asahi/coffee/house/ARG/>

2. 図書館目録の潜在力

□ データの宝庫としての図書館目録

1. 書誌情報
 - 789万件
2. 所蔵情報
 - 8870万件
3. その他
 1. 本文情報
 2. 貸出情報

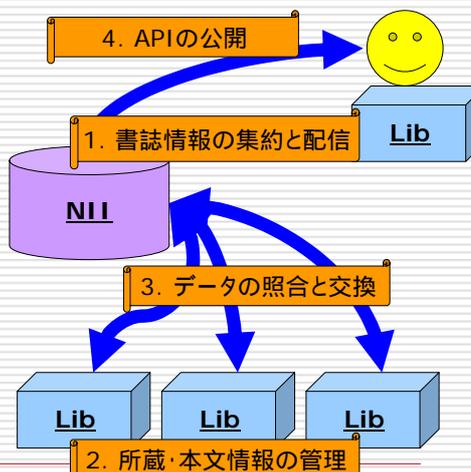


<http://www.ne.jp/asahi/coffee/house/ARG/>

3. 図書館目録の可能性

□ データ開放モデルの提案

1. 書誌情報の集約と配信
 - NIIの役割
2. 所蔵・本文情報の管理
 - 各図書館の役割
3. データの照合と交換
 - 双方の役割
4. APIの公開
 - NIIの役割



<http://www.ne.jp/asahi/coffee/house/ARG/>

4. 図書館目録の将来

□ 先行する実例

1. amazon webサービス
2. はてな ISBN/ASIN記法
3. 所蔵図書館マップ



□ データ開放が実現する将来

- 「自律・分散・協調」のネットワーク
- デジタル化の進展と真のユーザビリティ改善

<http://www.ne.jp/asahi/coffee/house/ARG/>

5. 再びの問題提起



□ 討論に向けて

1. 実は、ユーザーが拡大したのでないか
 - 「能動的な表現者」としてのユーザー
2. では、新たなユーザーに何を提供できるか
 - 宝庫としての図書館目録
3. そのとき、図書館目録の世界をどう変えられるか
 - API公開を目指したモデル再構築
4. そして、目録世界の変化は何を生み出すか
 - ユーザーによる図書館目録の多様化
 - 図書館による図書館サービスの深化

<http://www.ne.jp/asahi/coffee/house/ARG/>

続きは討論で



岡本真

ACADEMIC RESOURCE GUIDE (ARG)

編集長

<http://www.ne.jp/asahi/coffee/house/ARG/>